

## 復興支援プロジェクト「イワテヤマナシ」について

▽国立大学法人神戸大学大学院農学研究科

▽農学研究科附属食資源教育研究センター

(2012年3月16日)

東日本大震災に見舞われた被災地の復興と被災者の癒しとなることを願い、神戸大学は復興支援プロジェクト「校庭にイワテヤマナシの花を咲かせよう」を展開します。プロジェクトの開始にあたり、岩手県の三陸沿岸の3校で3月21日、イワテヤマナシの「祈念植樹式」をします。

### 1. 概要

岩手県を代表する詩人で童話作家の宮沢賢治に、『やまなし』という作品があります。小学校の教科書にも取り上げられるこの童話に登場する梨が、イワテヤマナシと考えられています。岩手の人々にとっては大変身近で象徴的な存在ですが、純粋種は数少なくなり、現在は絶滅危惧種として登録されています。

本プロジェクトは、このイワテヤマナシの苗木を復興のシンボルとして、被災地の学校に贈ろうというものです。木を植えることは未来に思いを馳せ、目を向けることです。春には純白の花が、初夏から秋には香りの良い小ぶりの果実が、子どもたちを楽しませてくれることでしょう。

### 2. イワテヤマナシ

イワテヤマナシ（別名：ミチノクナシ *Pyrus ussuriensis* var. *aromatica*）は、北上山系を中心とした東北地方に自生する野生梨の一種です。里山や人家周辺などで一般的に見られる個体はほとんどが雑種で、人の手によって維持・管理され、かつてはその果実も貴重な食糧として利用されていました。その学名にも *aromatica*（アロマティカ）とある通り、果実に香りを持つ事が特徴です。

神戸大学農学研究科の片山寛則講師はいち早くこのイワテヤマナシの植物学的、育種学的重要性に注目し、10年以上前から岩手県を中心とする北東北各地でその探索・収集を行い、研究・調査を進めてきました。その成果として北上山系で自生地が特定され、純粋なイワテヤマナシの現存個体数が非常に少なかったことから、2007年には環境省レッドリストに絶滅危惧種 IA 類として登録されました。現在、約 700 個体のイワテヤマナシが神戸大学で系統保存されています。

基礎研究が進むにつれ、イワテヤマナシは香りや酸味、早晩性など現在の栽培梨にはない様々な優れた特性を持つことがわかり、貴重な遺伝資源であることが明らかになってきました。まさに岩手の宝であり、食資源教育研究センターで接ぎ木をして育てた苗木を、いつか岩手にお返ししたいと考えていました。

### 3. 神戸大学復興支援プロジェクト

神戸大学は17年前に阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、東北地方を初めとする全国

の方々から温かいご支援をいただきました。被災を機に、安全・安心な社会の構築に取り組んでいますが、その研究成果を東日本大震災の復興に役立ててもらおうと昨年6月、「神戸大学からの提言」を五百旗頭真・復興構想会議議長に提出しました。「校庭にイワテヤマナシの花を咲かせよう」は、復興支援プロジェクトの一つとして、提言に盛り込まれています。

#### 4. 現地調査

片山講師ら教職員と学生、共同研究者の大阪市大理学研究科・植松千代美講師の4名は昨年12月、津波で被災した三陸沿岸地域のうち、南部の陸前高田市から宮古市までの小中高等学校、支援学校43校を訪問し、プロジェクトの趣旨を説明すると共に、各校の状況をうかがって参りました。津波で学校そのものが壊滅的な被害を受けたり、校庭に仮設住宅が建てられ地域の人々が暮らしていたり、また、遠方の他校に仮住まいしていたりと、状況は様々で、日常を取り戻すには長い年月を要すると思われました。

そのような状況の中でも、43校のうち23校から、合計55本の苗木を育ててみたいというお申し出をいただきました。3月下旬には、23校に苗木を送付する予定です。学校によっては統合した後、あるいは新しい場所に移った後に、記念として植樹したいという希望もありました。本プロジェクトは2011年度限りの取り組みとせず、復興の歩みにあわせて、息長く苗木の提供、あるいは植樹後のケアなどの交流を続けて行きたいと考えています。2012年度は初回の事前調査で訪問できなかった宮古市から久慈市までの学校を訪問し、趣旨説明を行い、希望校に苗木を提供する予定です。

#### 5. 祈念植樹式

苗木受け入れの希望のあった23校のうち、3月21日、宮古水産高校（午前9時半）、宮古市高浜小学校（午前10時半）、大槌町吉里吉里（きりきり）小学校（午後1時）の3校で、児童・生徒・先生方と祈念植樹を行います。神戸大学からは片山寛則講師のほか、内田一徳・農学研究科長や伊藤一幸・食資源教育研究センター長らが参加します。

本企画がきっかけとなり、宮古水産高校では生徒たちがイワテヤマナシを材料として加工品を開発する予定です。水産物とイワテヤマナシのコラボ商品など、自由な発想での開発が期待されます。被災した地域に少しでも明るい話題を提供できれば幸いです。

※ 私たちは復興を祈念しての植樹と位置づけ、「祈念植樹」の字をあてました。

以上